

# 継続的な学生調査からみる 短大教育の効果

コロナ禍前後での変化に着目して

日本教育制度学会 第29回大会  
課題別セッションⅢ（高等教育）

大分大学 IRセンター 講師  
堺 完

# はじめに

- 政策動向と学習（修）実態を把握するための学生調査
- 短期大学生調査について
- 全体経年比較にみる短期大学生の評価
- コロナ禍前後学年別の傾向比較（2018,2020年度入学生比較）
- まとめ

# 大学教育の社会的説明責任を促すこれまでの動き

中教審

- 2008年 学士課程教育の構築に向けて（答申）→教育の質向上、「**学士力**」、大学間連携による**質保証システムの検討**、**質保証を支える教職員の職能開発**

中教審

- 2012年 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）→**質保証から質転換**、学生の主体的な学習の喚起、**学長を中心とした教学プログラム改善**、**学修成果の測定や把握**

中教審

- 2016年 認証評価制度の充実に向けて（審議のまとめ）→自律的な改革サイクルとして内部質保証機能を重視した評価へ転換、評価項目として**三つのポリシーの整合性や目標の達成状況**、学内外者を含めた組織的検証の有無など、**評価方法として定期的な調査と情報の集約・分析の有無**、**客観的データや指標を活用した学修成果の把握や検証**

中教審

- 2018年 **2040年に向けた高等教育のグランドデザイン**（答申）→**学修者本位の教育への転換**、学生や教員の多様性を担保する体制作り、柔軟な大学連携・統合制度の導入、**学びの質保証の再構築（学修成果の可視化と情報公開）**、**教育・研究コストの可視化**と社会への説明責任、財源の多様化、高等教育機関の適正配置、国公立の役割明確化、学校種の接続と流動性

中教審

- 2020年 **教学マネジメント指針**→学修者本位の教育の実現を図るため継続的な教育改善に取り組むと同時に社会に対して説明責任を果たす大学運営の確立、「**三つの方針**」を通じた学修目標の具体化、授業科目・教育課程の編成・実施、**学修成果の把握・可視化**、**教育マネジメントを支える基盤（FD・SD、教学IR）**、情報公開

学修者本位の教育を目指すにあたり  
学生から情報を収集する必要性

## ◎ 教学マネジメント指針（2020）

→各大学が行っている教育が、学生に  
とって目的や方針に謳った成果を挙げ  
ているか

=在学時の教育を受けている学生がどの  
程度成長や達成度を実感しているか  
（学修成果を把握）

→各大学は教学改善等に必要な情報を収集し、自らが設定した基準や観点に基づき点検評価し、教学面の改善取り組みが求められている

⇒教育を受けている学生が何を得ているかが問われる現状において、学修成果の可視化を行い、教育の内部質保証サイクルを回すことは不可欠

# 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報例

- ▶ 学生の成長実感・満足度 = 学生がDPに定められたそれぞれの資質・能力をどの程度身に付けられているか等に関する学生の主観的な評価を明らかにする
- ⇒ 方法としては、学生へのアンケート調査を通じた情報収集を行い、DPに定められた資質・能力の伸長に対する主観的な評価の平均値などを算出。学位プログラムに所属する学生から実際にどのような評価を受けているかを明らかにする。

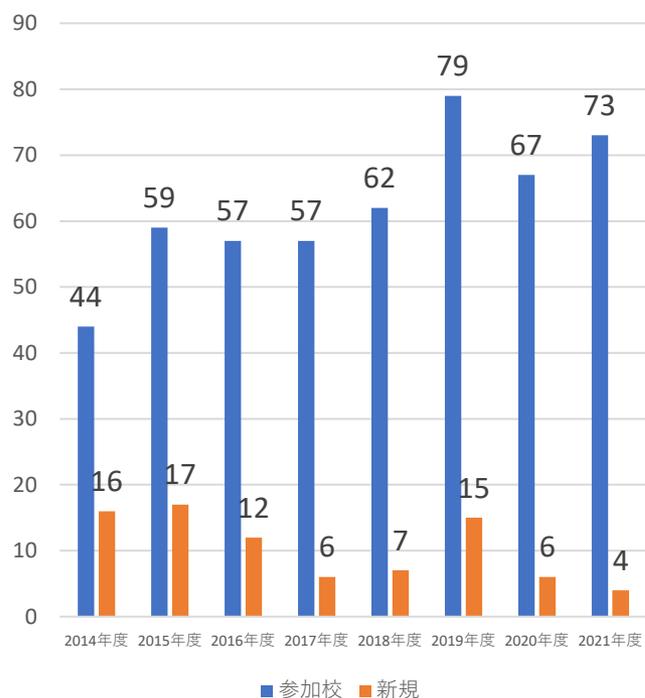
# 短期大学生調査の経緯と概要

- 大学・短期大学基準協会調査研究委員会が実施主体となっており、各短期大学における自己点検・評価や内部質保証サイクルに資するデータ収集ツールの提供
- 2008年度から10年間「短期大学における主体的改革・改善に資する自己点検・評価方法に関する調査研究」として研究開発
- 日本版大学生調査研究開発プロジェクト（JCIRP）の大学生調査（JCSS）を一部編集して短大生調査（JCSS）を2008年度より実施

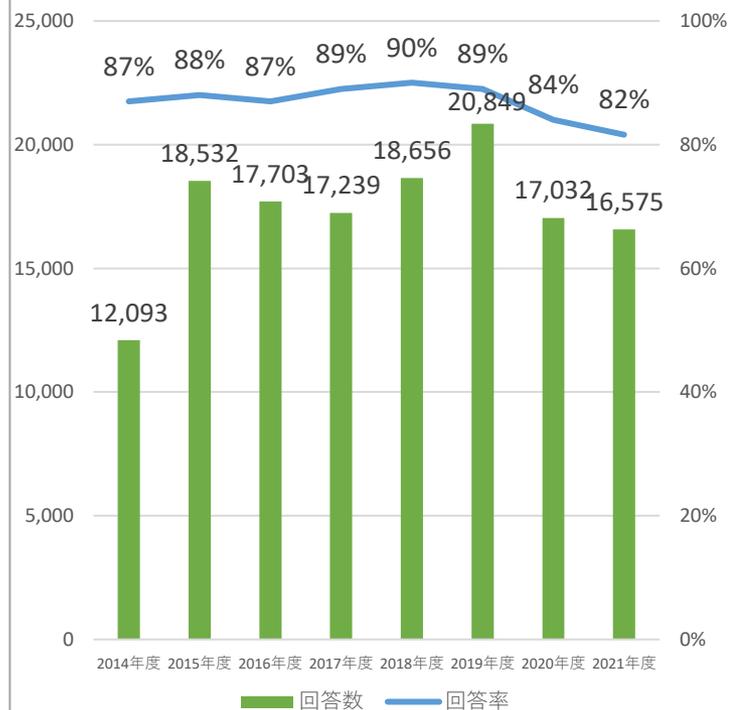
- 2014年度に調査内容を大幅に見直して、短大生調査 (*Tandaiseichousa*) に改定
- 2015年度より希望校に対して分野分類コードによる学科・専攻課程別の集計を実施可能に
- 2018年度より「短期大学生調査」を事業化
- 2020年度より希望校に対して質問紙調査の代替手段としてweb調査を実施

# 短期大学生調査（在学生） 調査実績

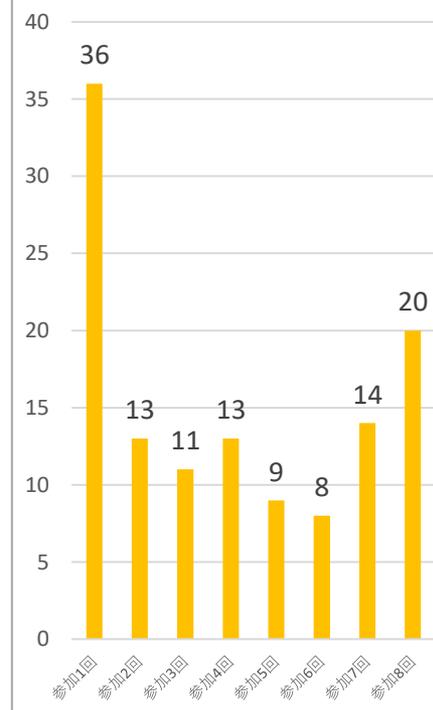
## 参加校数



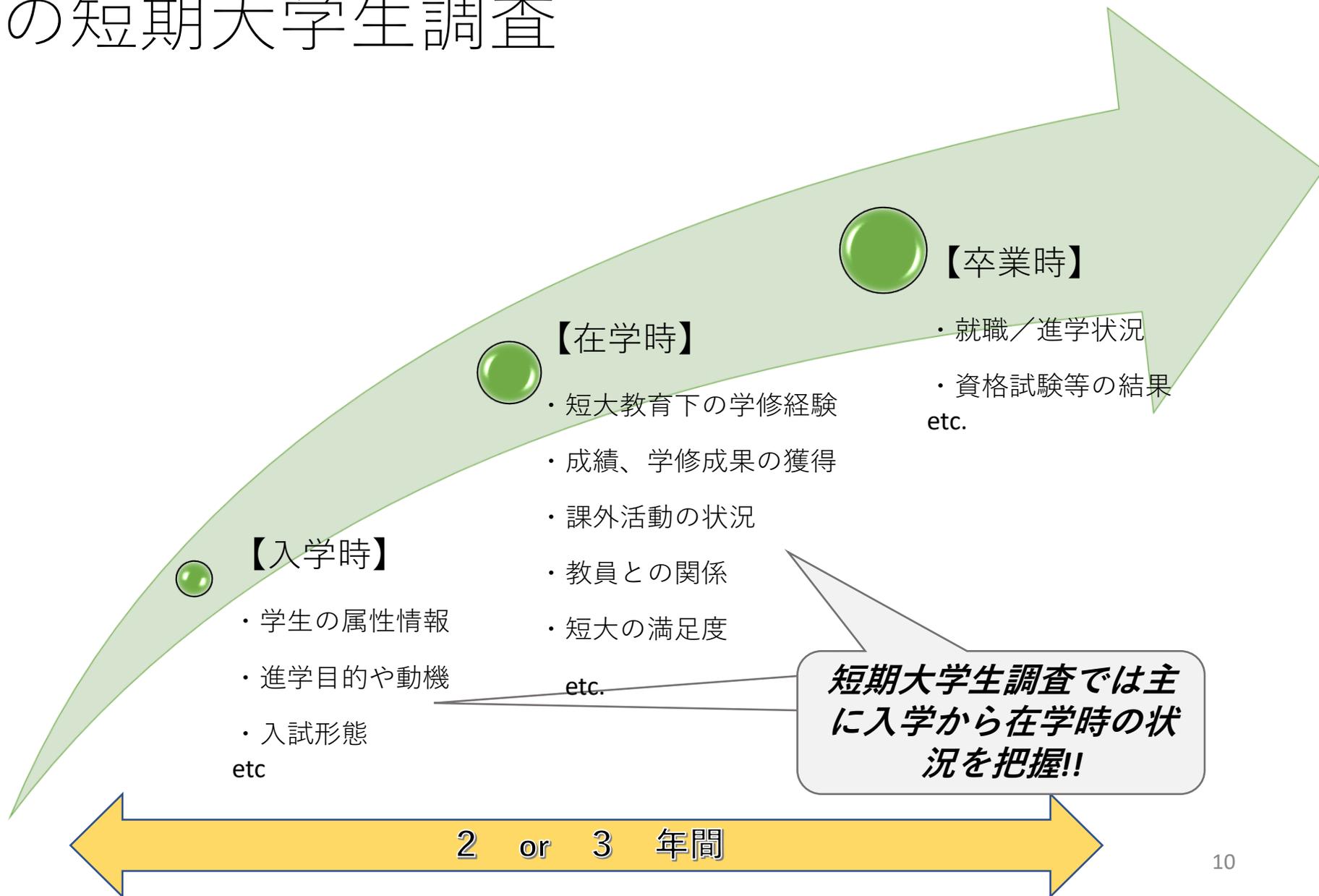
## 回答数（率）



## 参加回数別校数



# 学習（修）状況を把握するツールとしての短期大学生調査



# 短期大学生調査の設問内容

設問番号	設問内容	回答数	設問番号	設問内容	回答数
問1	性別	1	問14	読書経験（量）	2
問2	年齢	1	問15	課外活動の経験	6
問3	学年	1	問16	現在の成績状況	1
問4	居住形態	1	問17	満足度（施設・学生サービス）	13
問5	通学時間	1	問18	満足度（教育）	6
問6	志望度（第一志望）	1	問19	入学後の知識・技能の変化	22
問7	内部進学者	1	問20	将来のキャリア志望	1
問8	入試区分	1	問21	学内の経済的援助の有無	1
問9	進学選択時の重要度	15	問22	学費等の経済的負担割合	1
問10	進学アスピレーション	1	問23	学生生活の充実度	1
問11	授業における経験	17	問24	他者への短期大学推奨度	1
問12	1週間あたりの活動時間	4	問25	短期大学の総合評価	5
問13	教員との関わり合い	4			

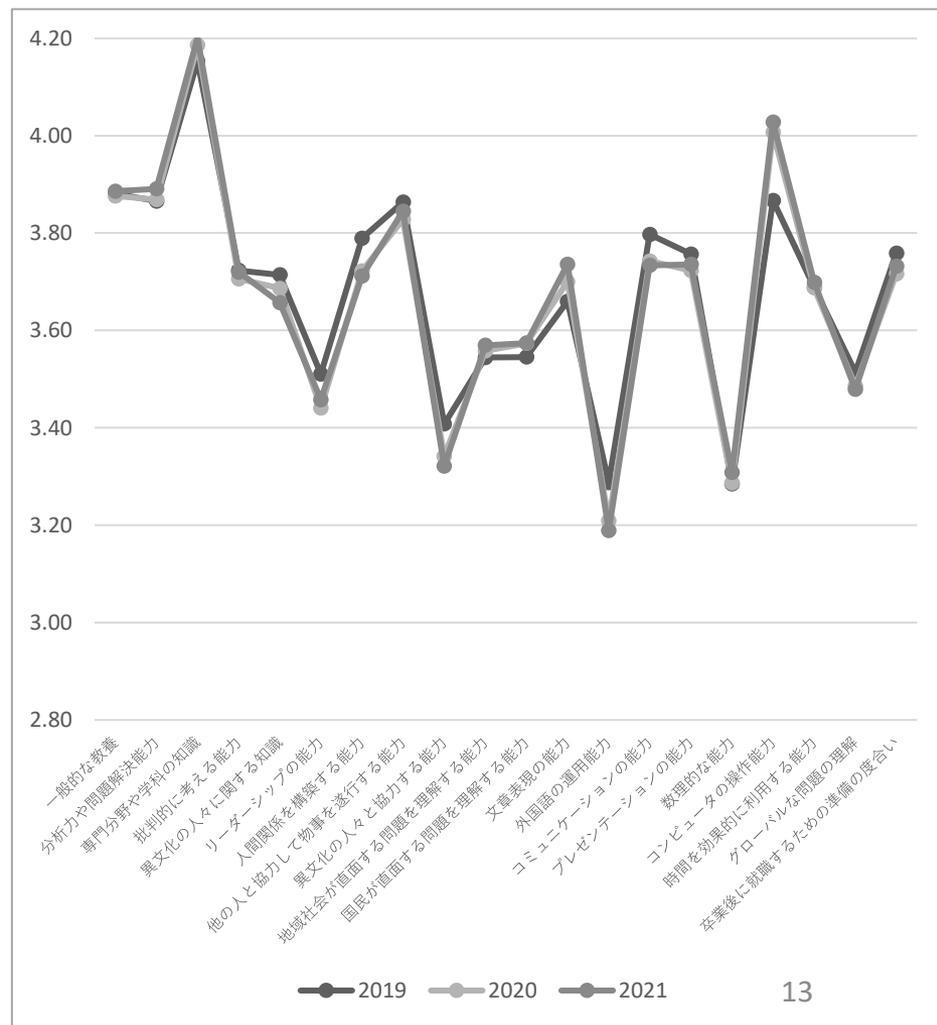
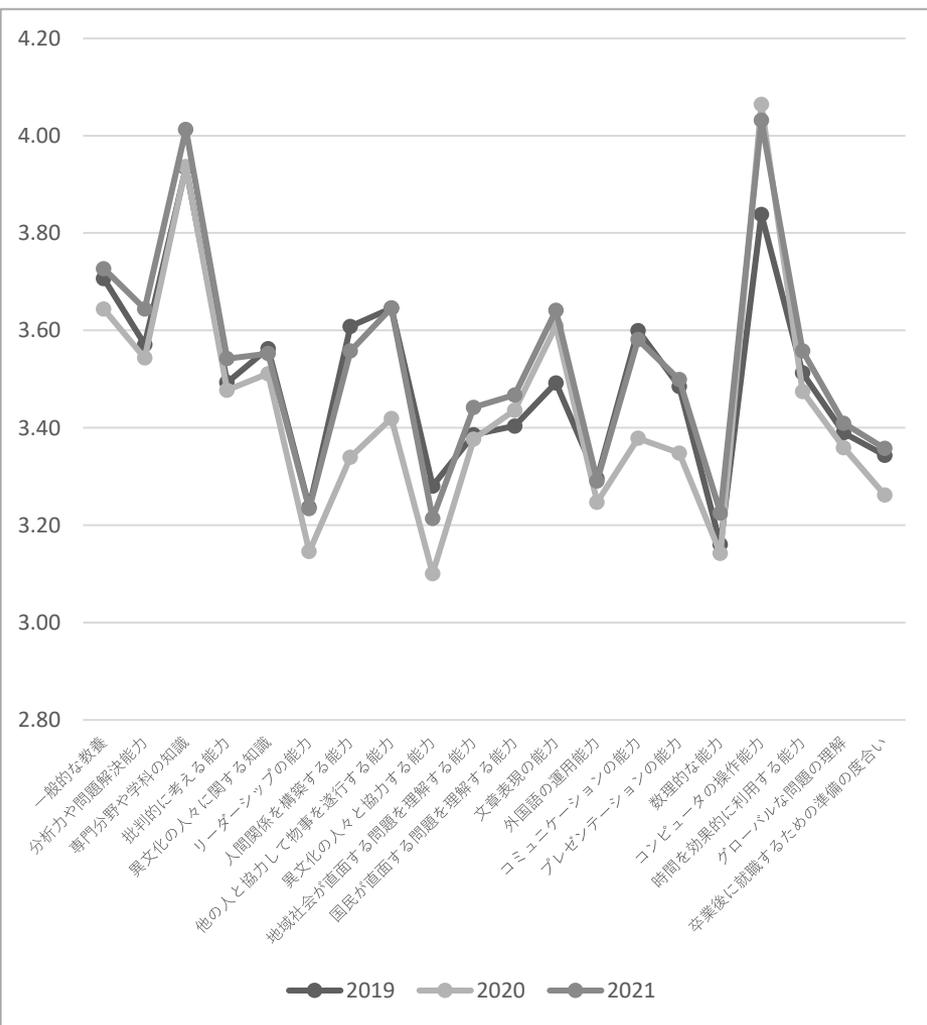
# コロナ禍が大学教育に及ぼした影響は？

- コロナ禍が学修成果などの学生の到達度実感にもたらした影響とは？4年制大学の事例ではどうなっているか？
- 大学IRコンソーシアム（2021）：コロナ禍1年目に実施した2020年度調査結果について、1年生の能力に関しては、「人間関係の構築」、「協力して作業する」、「コミュニケーション力」、「プレゼンテーション力」が前年より低下する一方で、文書能力とコンピュータを扱う能力は増加。上級生も類似の傾向であるが、低下幅は1年生の結果に比べてわずか。
- 大学IRコンソーシアム（2022）：コロナ禍2年目に実施した2021年度調査結果では、対人関連の4つの能力はコロナ禍前の2019年度調査結果並に評価が戻る。

# (参考) 大学IRコンソーシアム調査結果に見るコロナの影響

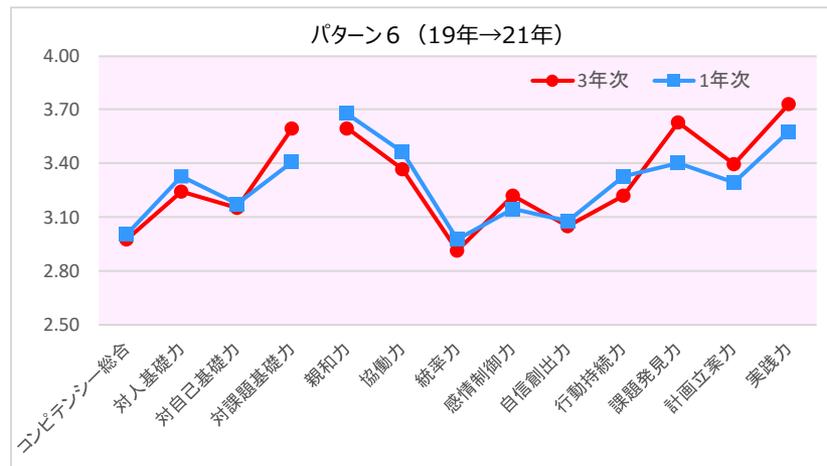
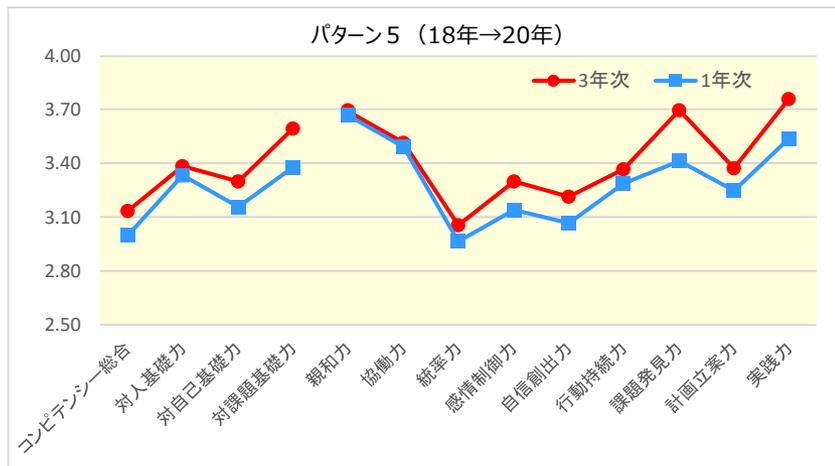
## 1年生調査

## 上級生調査

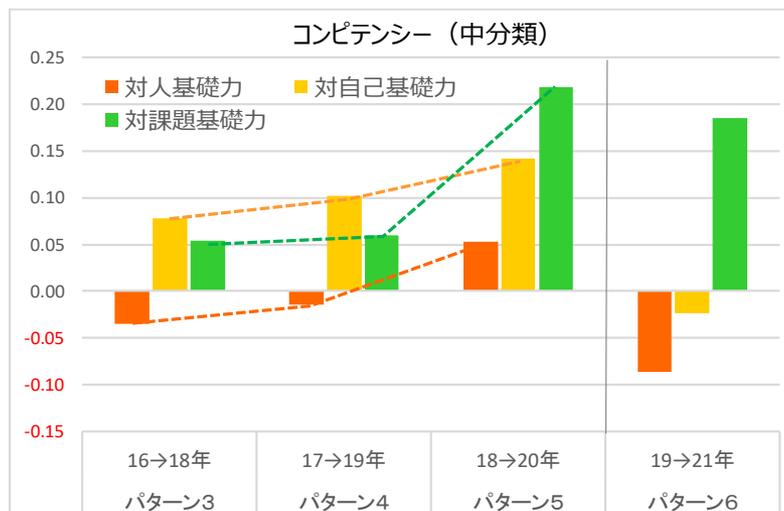


# (参考) PROGテスト結果に見るコロナの影響

## ● 経年で見えるコンピテンシースコアの変化



## ● コンピテンシースコアの変化量 (3年次スコアと1年次スコアの差) の推移



# 短期大学におけるコロナ禍の影響は？

- コロナ禍による学生の学修成果等への影響について、4年制大学を対象とした学生調査結果より確認
- 課題対応に関連した能力はコロナ禍でも評価は上昇（あまり影響を受けていない）
- しかし、対人関連などの能力については行動制限の影響が見られる（ただし、**2021**年度は評価は改善傾向）

⇒ 「短期大学調査」結果を経年によって見ることでコロナ禍による短大教育への影響が見られるか？

# 使用するデータや設問 I

## 【データ】

- 短期大学生調査2014年から2021年までの8か年分

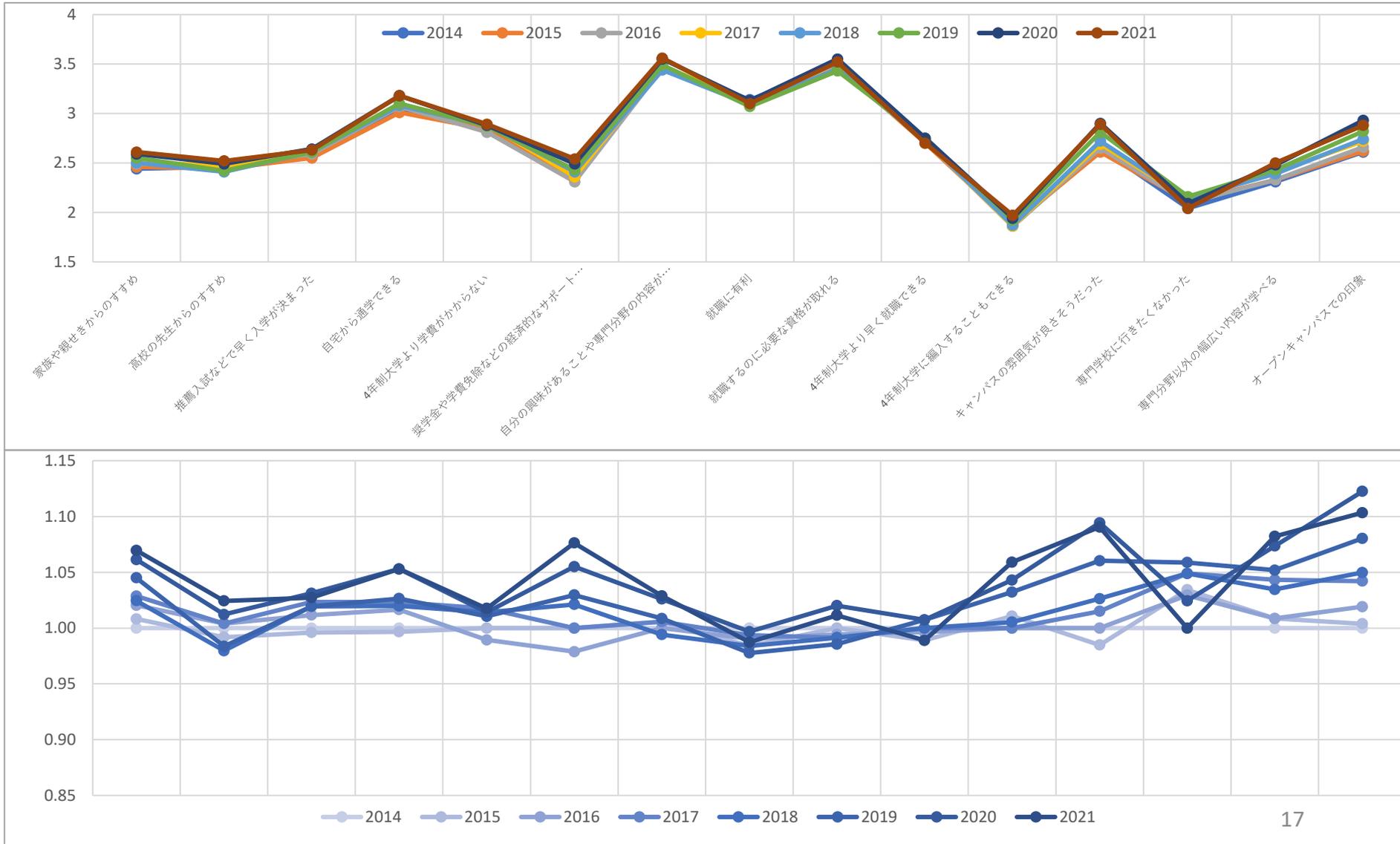
## 【設問】

- 問9\_進学選択時の重要度 (4段階評価)
- 問11\_授業における経験 (4段階評価)
- 問17\_満足度 (施設・学生サービス) + 問18\_満足度 (教育) : (5段階評価)
- 問19\_入学後の知識・技能の変化 (5段階評価)
- 問23\_学生生活の充実度 + 問24\_他者への短期大学推奨度 + 問25\_短期大学の総合満足度 (5段階評価)

※以下のグラフは上段は平均値比較。下段は2014年度調査結果を基準値としての経年比較。

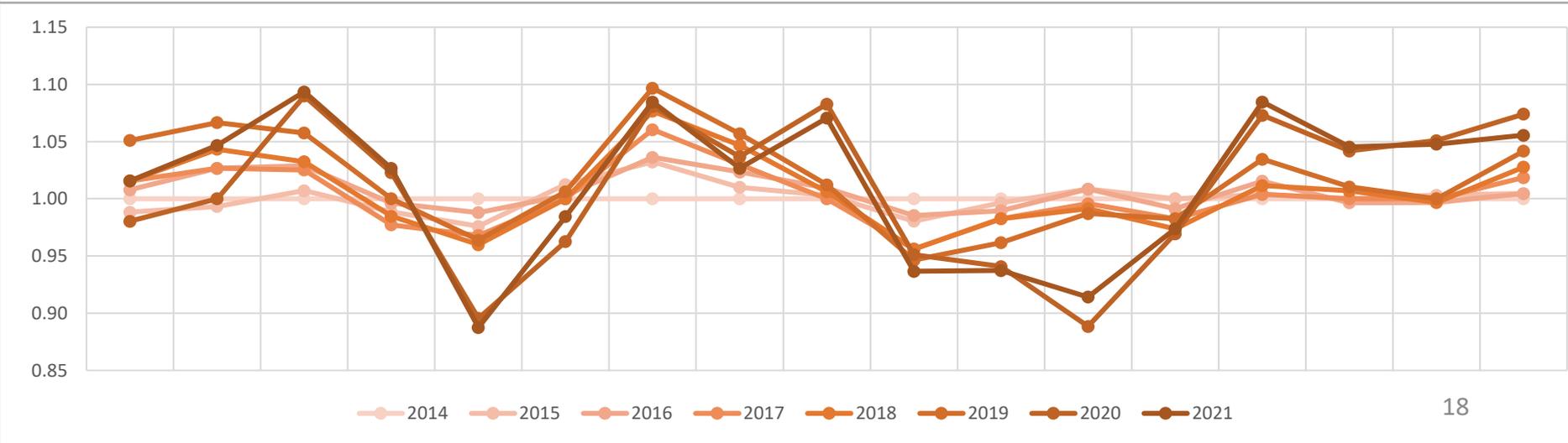
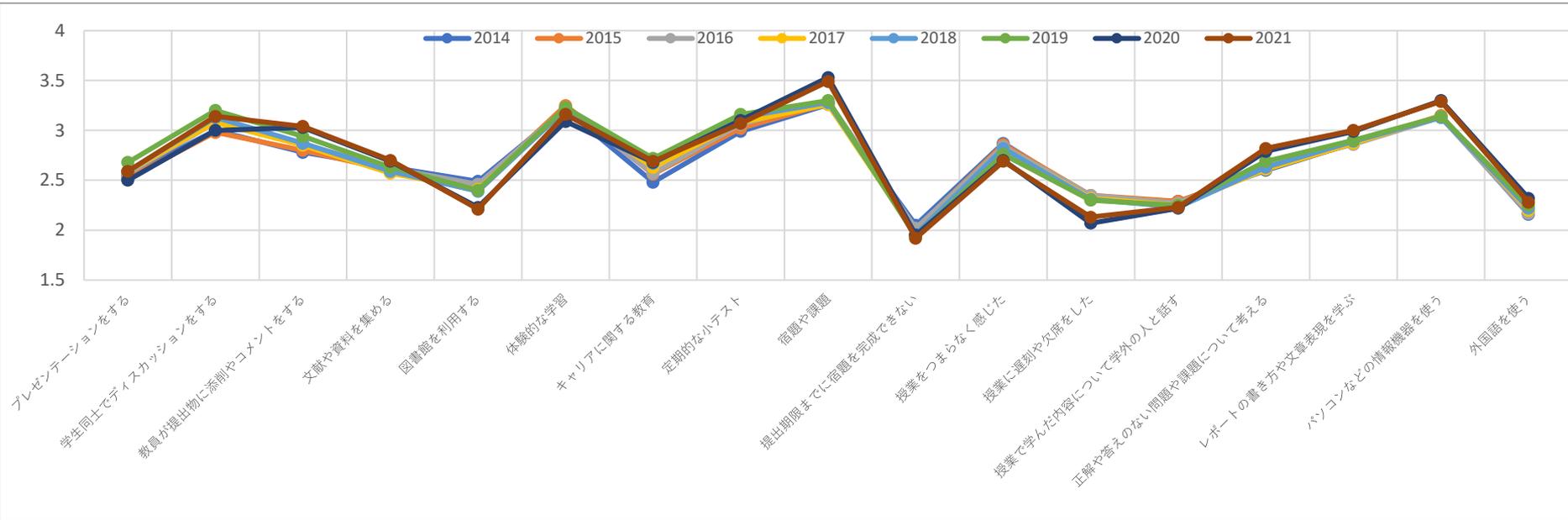
# 全体集計結果を経年で見る①

## 【進学選択時の重要度】



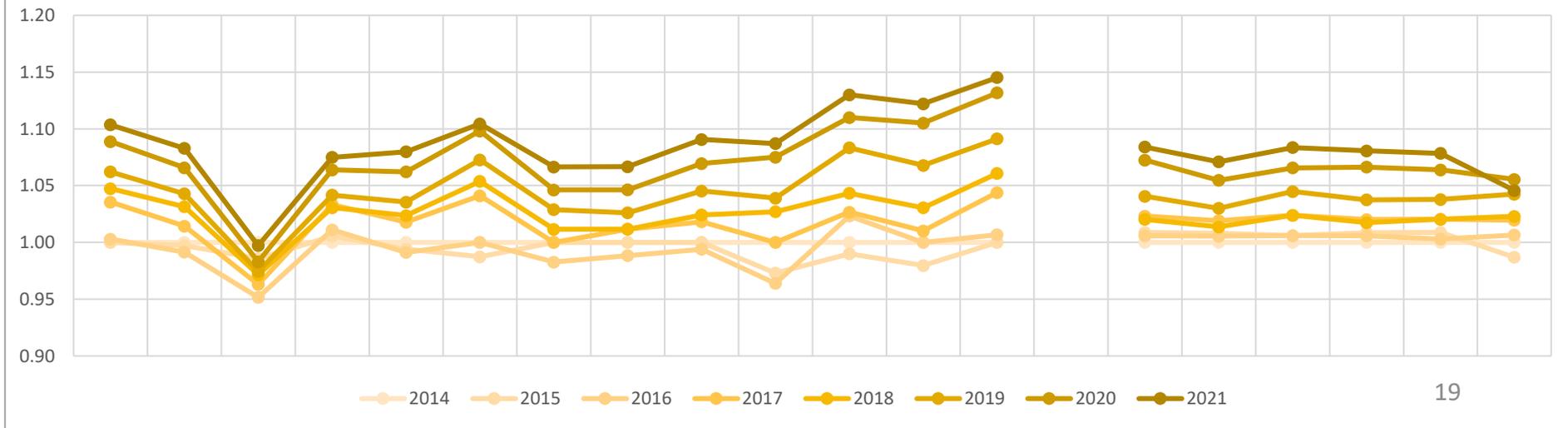
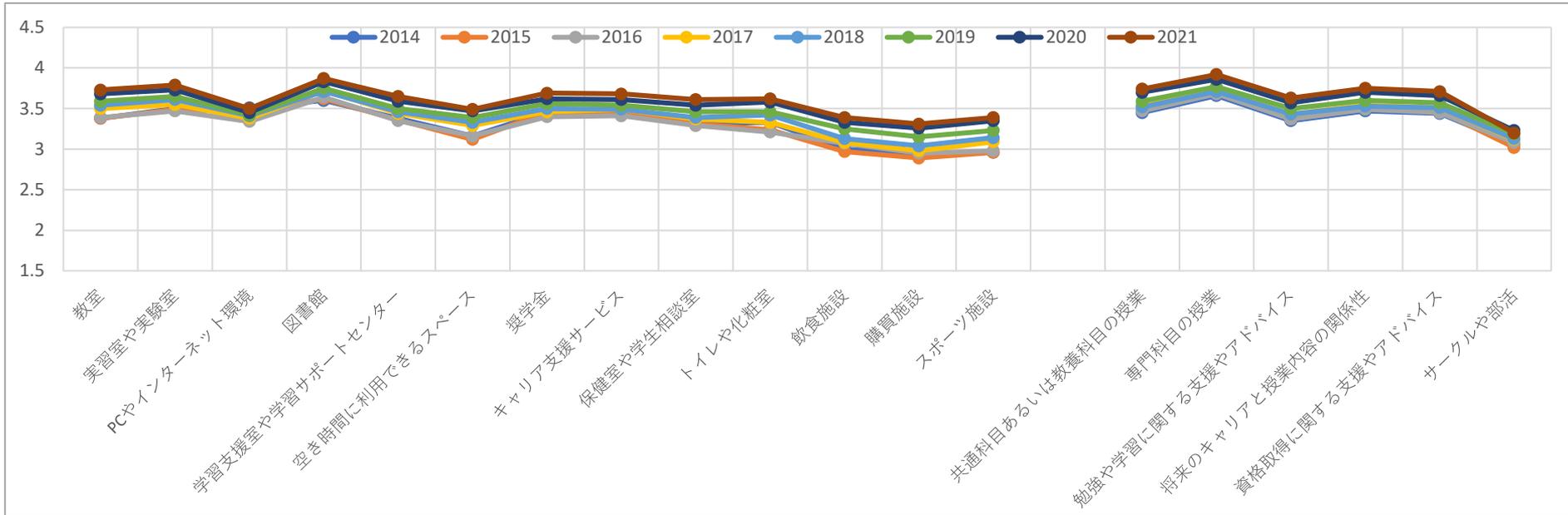
# 全体集計結果を経年で見る②

## 【授業における経験】



# 全体集計結果を経年で見ると③

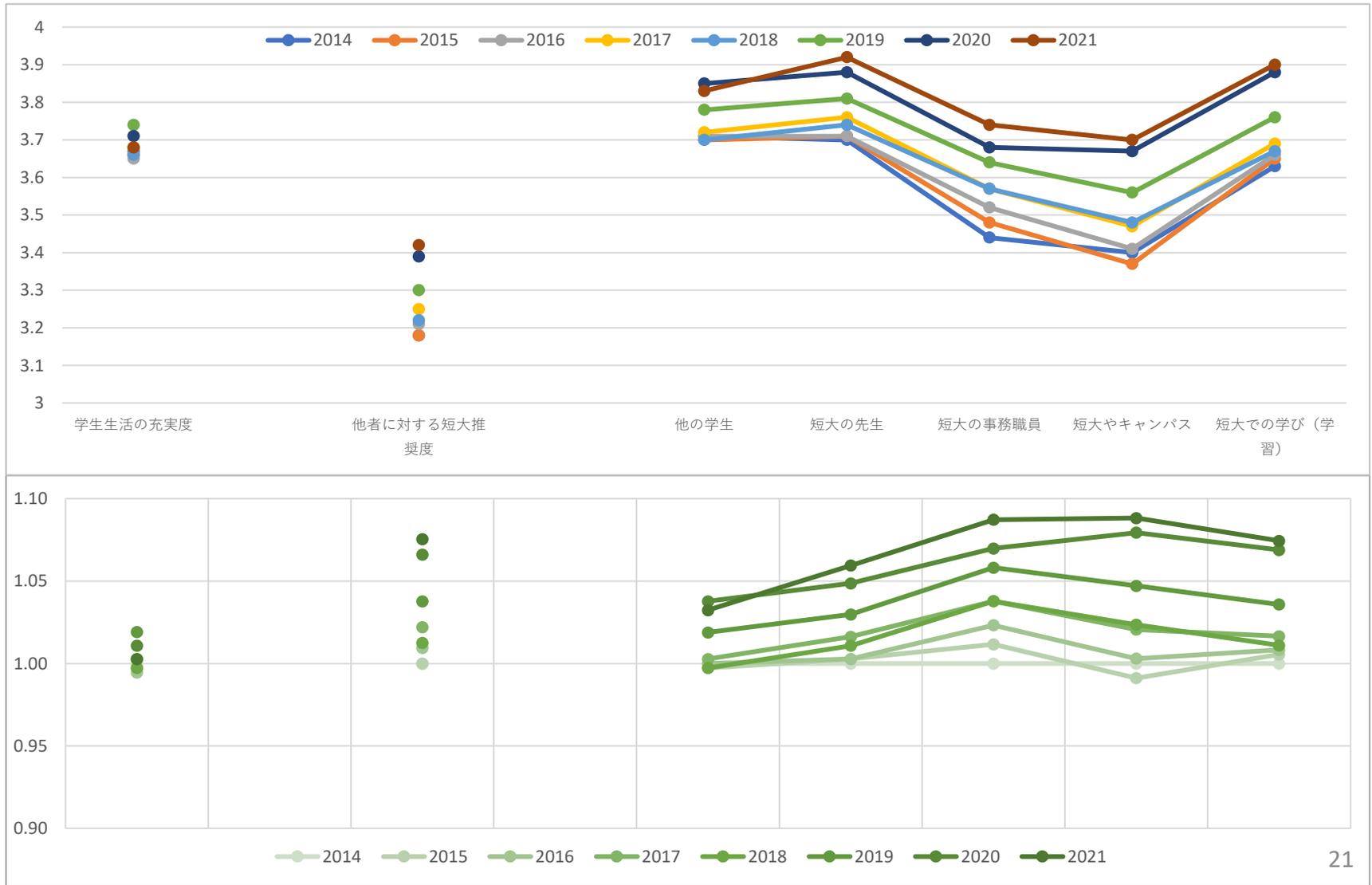
【満足度】





# 全体集計結果を経年で見ると⑤

【学生生活の充実度 + 他者への短期大学推奨度 + 短期大学の総合満足度】



# 考察①

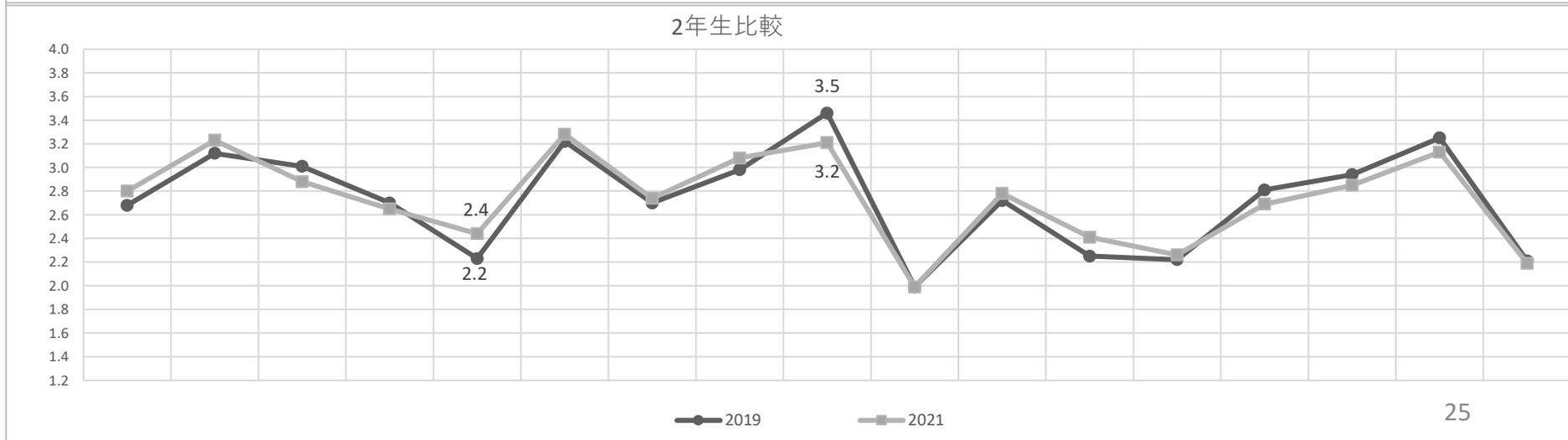
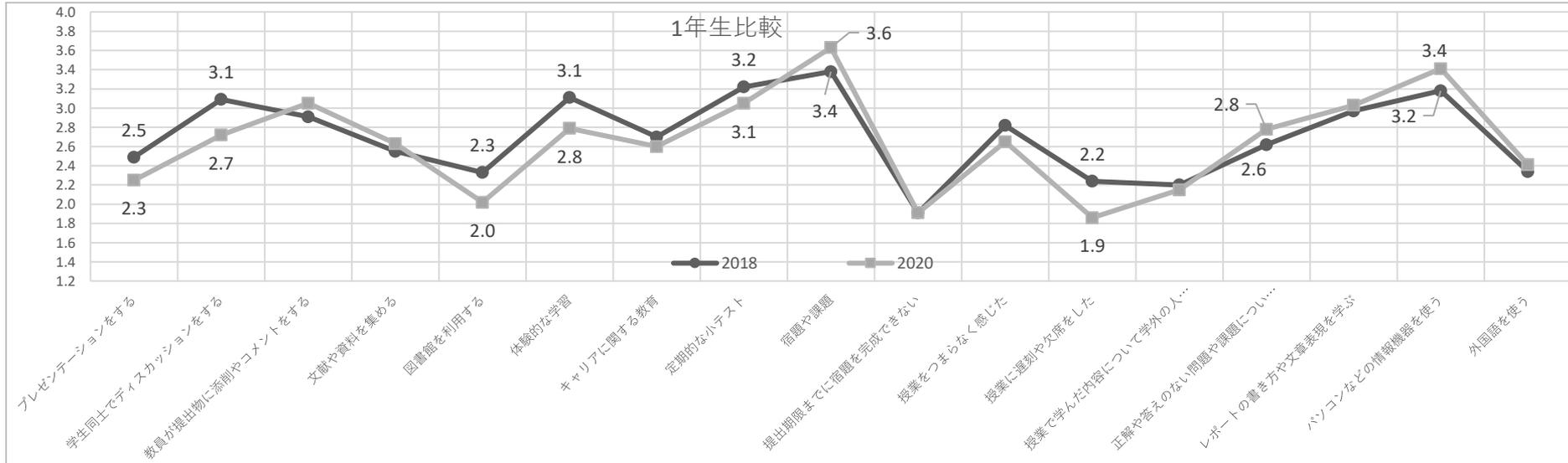
- 平均値を経年で見ると、一見それほど変化はしていない（毎年同じような傾向）に見えるが、基準年との比較で見るとやや回答に違いが見られる。
- 進学理由等では、「自宅から通学」「奨学金等の経済的サポート」「キャンパスの雰囲気」「オープンキャンパスの印象」など、コロナ禍による影響や受験生の短大選びの変化などが見て取れる。
- 学習（修）経験に関する授業における経験では、「プレゼンテーション」「学生同士のディスカッション」といったコロナ禍1年目に評価を下げたものが2年目には評価が戻りつつあること、「教員が提出物にコメント」「宿題や課題」からオンライン授業等の導入など、コロナ禍での授業方法の変化を受けて評価が上がった部分など読み取れる。

- 満足度では全体としては、評価はインフレ傾向か？施設やサービスの満足度や授業をはじめとした教育の満足度は、コロナ禍にあっても下がらない？
- 学習（修）成果に該当する知識・技能の変化では、「一般的な教養」「専門分野の知識」、「論理的に考える力」「文章を書く力」「情報機器を使う力」など知識の理解や汎用的能力に該当する項目は、コロナ禍の方が評価が高くなる傾向。短大側の工夫によって成果実感が上がっている可能性もある。「他の人と協力する力」「プレゼンテーション力」といった対人関連能力の成果実感に影響受けていないように見える。
- 学生生活充実度や他者推奨度はコロナ禍であっても評価を上げている。また総合満足度はどの項目でも肯定的な評価が高く、経年でみるとインフレ傾向。短大がきちんと教育を行い、短大生がそこを評価している表れか。



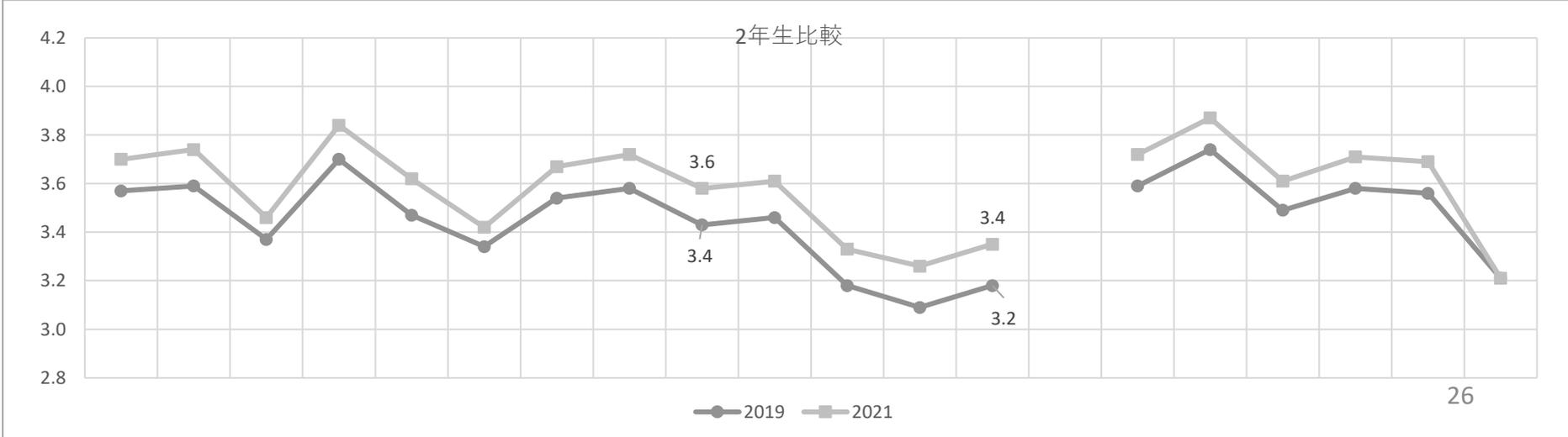
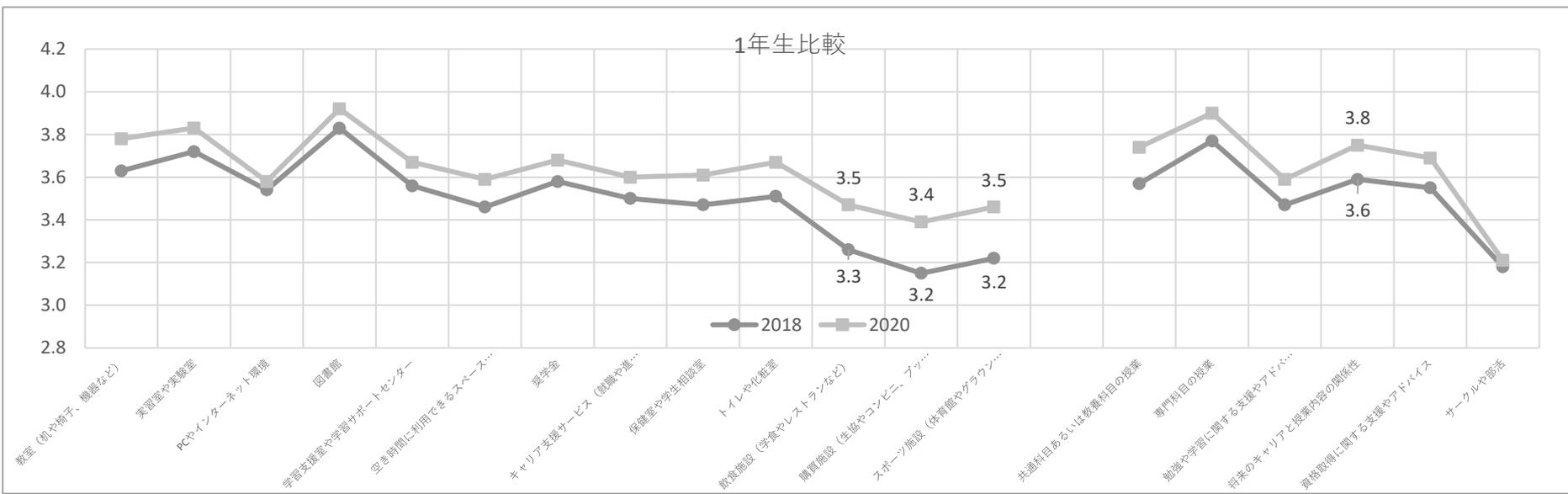
# 同学年比較：授業における学習（修）経験

短大での授業における活動状況について「よくあった(4)」～「まったくなかった(1)」の4件法で回答し、平均値を比較（±0.2以上差があった項目のみ値ラベル記載）。



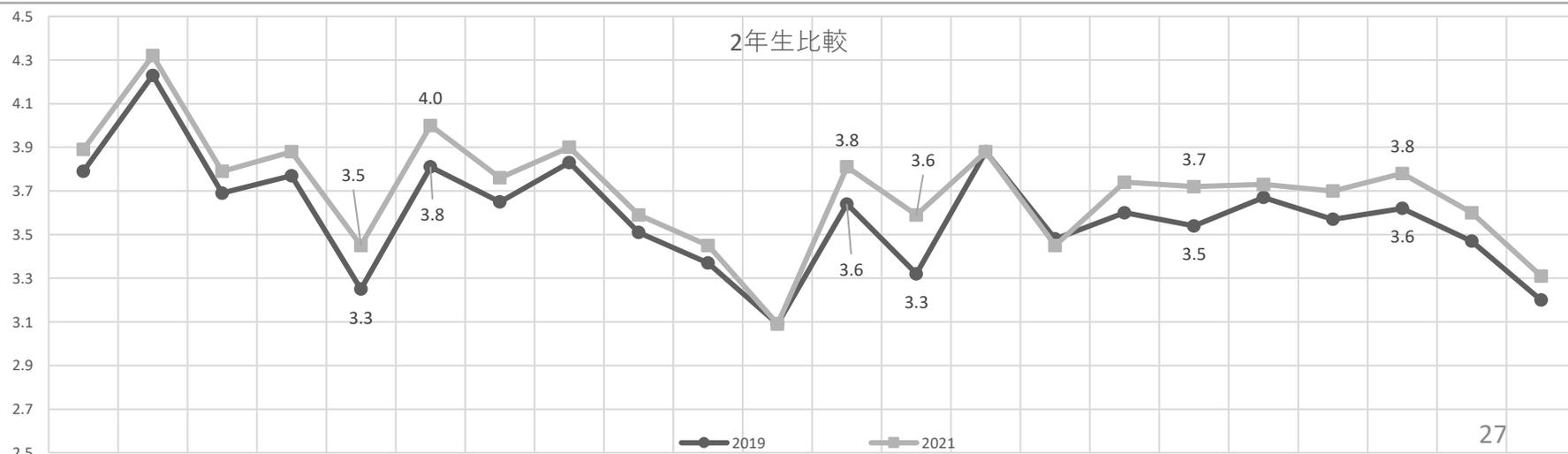
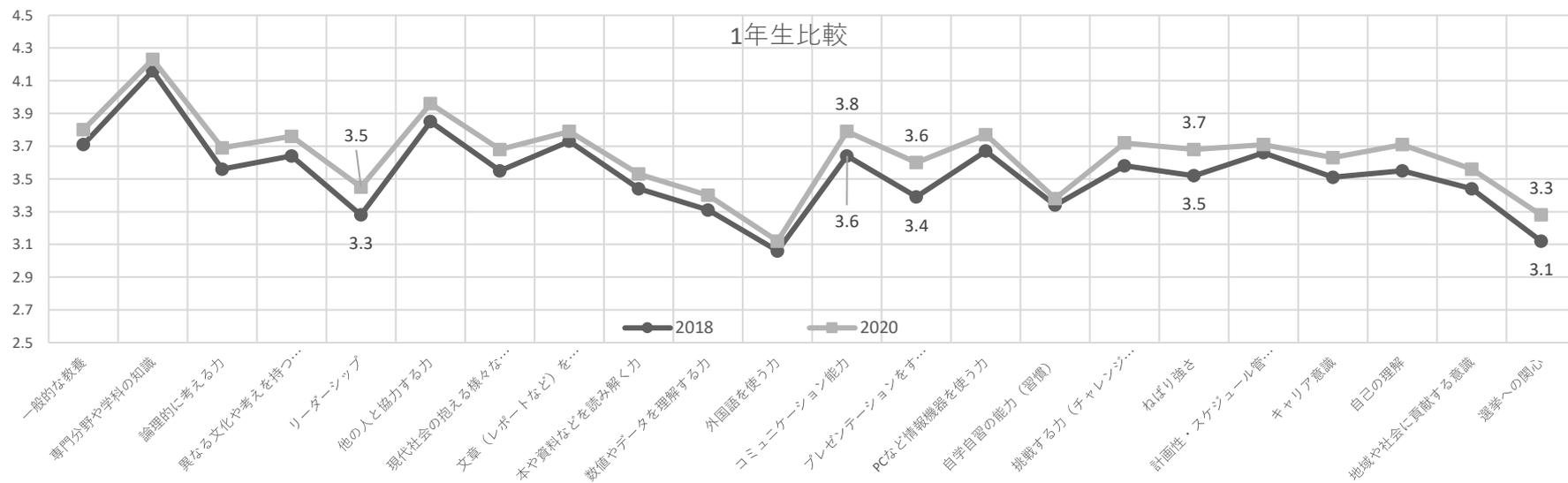
# 同学年比較：満足度

短大での施設やサービス、教育について「満足（5）」～「不満足（1）」の5件法で回答し、平均値を比較（±0.2以上差があった項目のみ値ラベル記載）。



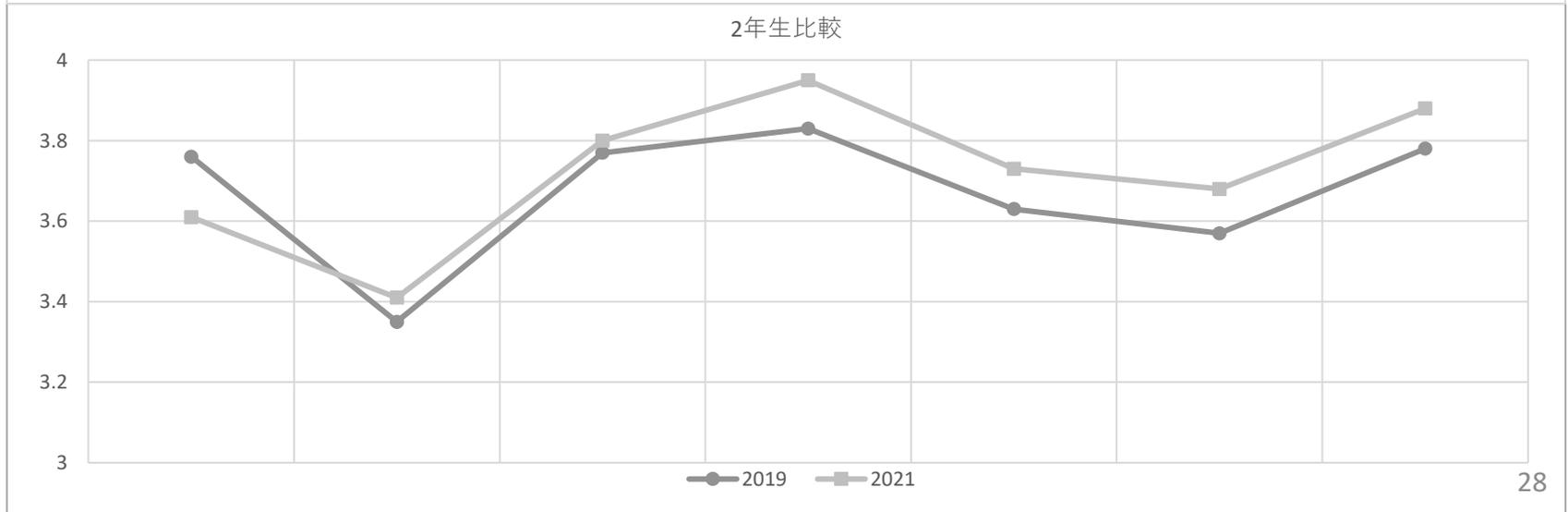
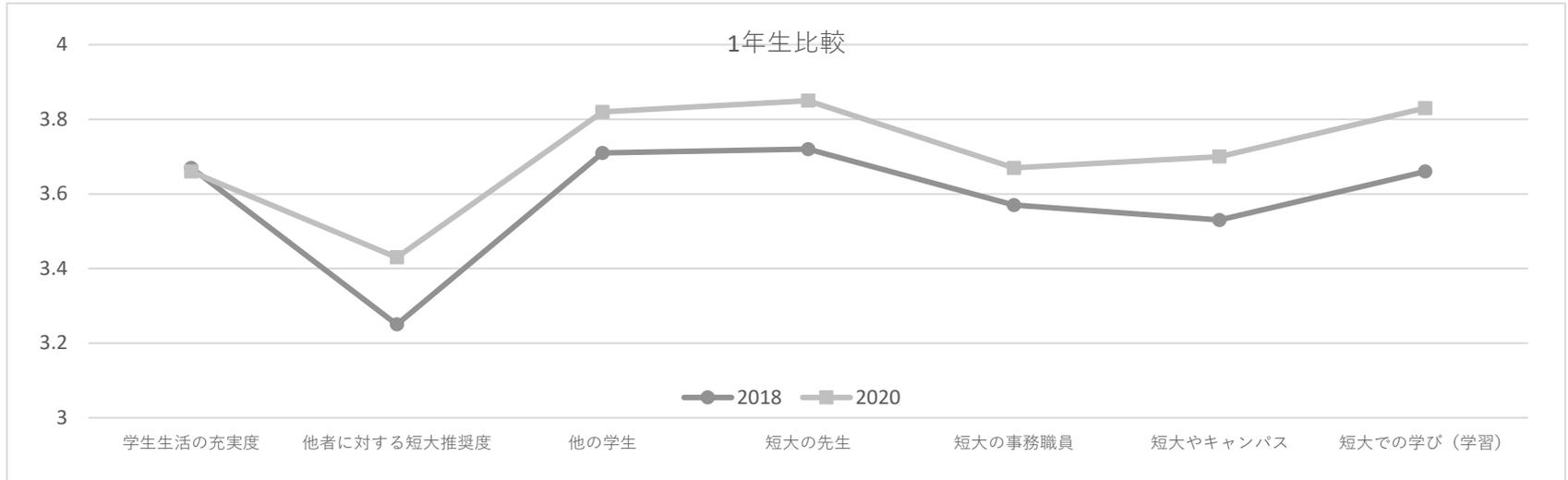
# 同学年比較：短期大学教育の学習（修）成果

短期大学において能力や知識等が「大きく増えた（5）」～「大きく減った（1）」の5件法で回答し、平均値を比較（±0.2以上差があった項目のみ値ラベル記載）。



# 同学年比較：学生生活の充実度＋他者への短期大学推奨度＋短期大学の総合満足度

短期大学において総合満足度が「肯定的回答（5）」～「否定的回答（1）」の5件法で回答し、平均値を比較（±0.2以上差があった項目のみ値ラベル記載）。



## 考察②

- 学習（修）経験の授業における経験においては、オンライン方式など授業方法のありを受けて、ディスカッションやプレゼンなど他の人と学び合う学習（修）経験や実習・実験など体験的な学修経験にやや差が見られる。その他に図書館等の対面でないと受けられない学修サービスなども違いが見られる。
- ただその一方で、学習（修）成果では、コロナ禍後の方が評価が高い傾向にあり、様々な学修活動に制限がかかった中でも短大側がコロナ禍前と同じような学習（修）成果が得られるような取り組みを行ったなどが考えられる。
- 満足度や充実度、他者推奨度、総合満足度などはコロナ禍後の方が評価が高い。コロナ禍での短大側の取り組みを評価か？対面実施が早期に復活していたなどの要因もあるか？

# まとめ①

- 短期大学生調査からコロナ禍の影響はあったところは確認できた。
- 学習（修）経験の部分で、4年制大学向けの学生調査結果同様、対課題に関する設問項目は、コロナ禍後の方が評価が高い。一方で対人関係に該当する設問項目は、コロナ禍1年目（2020年）は評価が低いですが、翌年（2021年）は評価が戻っている。
- ただ、学習（修）成果はコロナ禍によって評価が下がっているとは言えない。むしろ、評価が上がる傾向に。短大教育の効果を示している？

## まとめ②

### ●継続的に（経年で）見ることの意味として

- ▶参加校にとっては単に全国と比較して、自校の結果の優劣を把握する以外に、複数年度で自校の回答をモニタリングすることで、自校の学生の回答傾向をつかむ
- ▶年度が違っても回答に変化があるか。カリキュラムやプログラム、各種支援策の導入、設備の更新など教育や学習環境の変化によって何かしらの変化があったか。短大教育全般の傾向を把握できる

# 引用・参考文献

- 大学IRコンソーシアム「コロナ禍の学生生活や習得能力への影響についての報告書」（2021）  
[https://irnw.jp/images/20210916\\_%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8v12\\_HP%E7%94%A8.pdf](https://irnw.jp/images/20210916_%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8v12_HP%E7%94%A8.pdf)
- 大学IRコンソーシアム「「一年生調査2019年」「上級生調査2019年」基礎集計結果」（2020）  
[https://irnw.jp/images/home/HP%E7%94%A8\\_%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E9%9B%86%E8%A8%882019\\_20201023%E6%94%B9%E8%A8%82.pdf](https://irnw.jp/images/home/HP%E7%94%A8_%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E9%9B%86%E8%A8%882019_20201023%E6%94%B9%E8%A8%82.pdf)
- 大学IRコンソーシアム「「一年生調査2020年」「上級生調査2020年」基礎集計結果」（2021）  
[https://irnw.jp/images/%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E9%9B%86%E8%A8%882020\\_%E5%AD%A6%E8%AA%B FHP%E7%94%A8.pdf](https://irnw.jp/images/%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E9%9B%86%E8%A8%882020_%E5%AD%A6%E8%AA%B FHP%E7%94%A8.pdf)
- 大学IRコンソーシアム「「一年生調査2021年」「上級生調査2021年」基礎集計結果」（2022）  
[https://irnw.jp/images/%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E9%9B%86%E8%A8%882020\\_%E5%AD%A6%E8%AA%B FHP%E7%94%A8.pdf](https://irnw.jp/images/%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E9%9B%86%E8%A8%882020_%E5%AD%A6%E8%AA%B FHP%E7%94%A8.pdf)
- 中央教育審議会 学士課程教育の構築に向けて（答申）平成20年12月24日
- 中央教育審議会 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）平成24年8月28日
- 中央教育審議会 大学分科会 認証評価制度の充実に向けて（審議まとめ）平成28年 3月18日
- 中央教育審議会 2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）平成30年11月26日
- 中央教育審議会 大学分科会 教学マネジメント指針 令和2年1月22日
- リアセック「コンピテンシーの伸長に対するコロナの影響について」（2020）

ご清聴ありがとうございました！

大分大学 IRセンター

堺 完

osakai@oita-u.ac.jp